

カラダに膿ができたら

膿(のう)は”うみ”のことです。

細菌感染が原因です。

気温が高くなってくると、汗をかきます。

汗疹(かんしん、あせものこと)ができて、

皮膚の上に静かにしている**ブドウ球菌**や

化膿性レンサ球菌が暴れ始めます。

結果として、とびひ(火の粉が次々と飛ぶようにできる皮疹)、
正式名称は伝染性膿痂疹(でんせんせいのうかしん)ができます。

また、膿瘍(のうよう)といって”ウミの袋”を作ることもあります。

小さいサイズのものは、抗生剤の入った外用薬だけで
何とかできます。

ある程度から大きいサイズになったものには
抗生剤の内服が必要となります。

重症になると抗生剤の点滴をすることもあります。

漢方薬ならば、**排膿散及湯**(はいのうさんきゅうとう)が使えます。

小さな膿ならば消えてなくなります。

手指、爪にできた小さな傷から膿ができることがあります。

こういう小さな傷からの感染は早目にキチンと対処しないと、
後からの処置が大変になります。

敗血症を起こして全身状態が

悪くなった例もありますから、

なめてはいけません。



予約システムが変わります

2015年5月11日(月)から、予約システムが変更となります。
従来は電話予約でしたが、インターネットによる予約になります。
パソコンあるいは携帯電話・スマートフォンからインターネットで
診療・予防接種の予約がとれます。
受付・外来の廊下にあるポスターのQRコード、
あるいはなかしまこどもクリニックの
ホームページ(<http://www.n-kodomo.com/>)上の
QRコードから予約画面に行けます。



現在はサイトの登録のみとなっています。

5月11日(月)から予約可能となります。

5月末日までは従来の予約電話の回線はつながりますが、
音声案内のみで予約はとれません。

よろしくお願いします。



お知らせ

なかしまこども健康セミナー開催のお知らせ

5月23日(土) 13:30～ 院内にて

テーマ:「夏に使える漢方薬」

※参加は無料です。お子さまと一緒に来ていただいても大丈夫です。



小児夜間急病センター当番日

5月15日(金) 19:30-22:30(受付) 場所: 岐阜市民病院